

第7回連絡会議現地調査会報告

三重県環境生活部廃棄物・リサイクル課

災害廃棄物広域処理推進チーム

報告内容

- 1.はじめに
- 2.被災地の状況
- 3.災害廃棄物発生量
- 4.石巻市 二次仮置き場、中間処理施設
- 5.女川町 災害廃棄物選別処理施設

1. はじめに

目的

- 災害廃棄物の広域処理を考えるうえで、実際に被災自治体における災害廃棄物の処理状況の実態を確認。
- 宮城県内の災害廃棄物の二次仮置場及び分別施設を視察し、現地担当者との意見交換を行う。

視察場所選定理由

■ 宮城県石巻市(5月16日)

二次仮置き場、中間処理施設

→ 災害廃棄物発生量が最大の地域であり、
広域処理が進んでいない。

■ 宮城県女川町(5月17日)

災害廃棄物選別処理施設

→ 広域処理の先進事例(分別の状況)

2. 被災地の状況

視察場所位置図



被災地(女川)の状況 I



被災地(女川)の状況Ⅱ



被災地(女川)の状況Ⅲ



被災地(女川)の状況Ⅳ



3. 災害廃棄物発生量

災害廃棄物発生量 (H24.5.21 環境省発表)

災害廃棄物推計量 (見直し前) → (見直し後)

| | |
|----------|-------------------------|
| 岩手県 | 約480 → 約530 <約12年分> |
| 宮城県 | 約1,570 → 約1,150 <約14年分> |
| (石巻ブロック) | 685 → 312 |

単位:万t

岩手県における増員要因

- ・津波堆積物の混入を計上
- ・海から引き揚げられた災害廃棄物を計上
- ・解体等の見込みが明らかになった大型建築物等の解体量を計上

宮城県における減少要因

- ・当初推計のうち、相当数の家屋が海に流出
- ・解体をせずに補修する家屋等が相当数発生
- ・市町村による独自処理の実施

広域処理必要量 (見直し前) → (見直し後)

| | 木くず | 可燃物 | 不燃物 | 合計 |
|-----|----------|----------|-----------|-----------|
| 岩手県 | 47 → 18 | 3 → 12 | 7 → 90 | 57 → 120 |
| 宮城県 | 73 → 44 | 132 → 31 | 139 → 39 | 344 → 127 |
| 合計 | 120 → 62 | 135 → 43 | 146 → 129 | 401 → 247 |

単位:万t

4. 宮城県石巻市（5月16日）

二次仮置き場、中間処理施設

災害廃棄物処理業務(石巻ブロック) 中間処理施設の概要



①～⑫は写真番号



鹿島・清水・西松・佐藤・飛島・竹中土木・若築・橋本・遠藤
—— 特定共同企業体 ——

石巻ブロック二次仮置き場での廃棄物の流れ

第1段階では、二次仮置き場として使用するために、既に搬入済の廃棄物を処理または移動させた。

二次仮置き場

- ・粗選別
- ・機械破砕、二次選別
- ・焼却
- ・津波堆積物の土質改良・港湾埋立

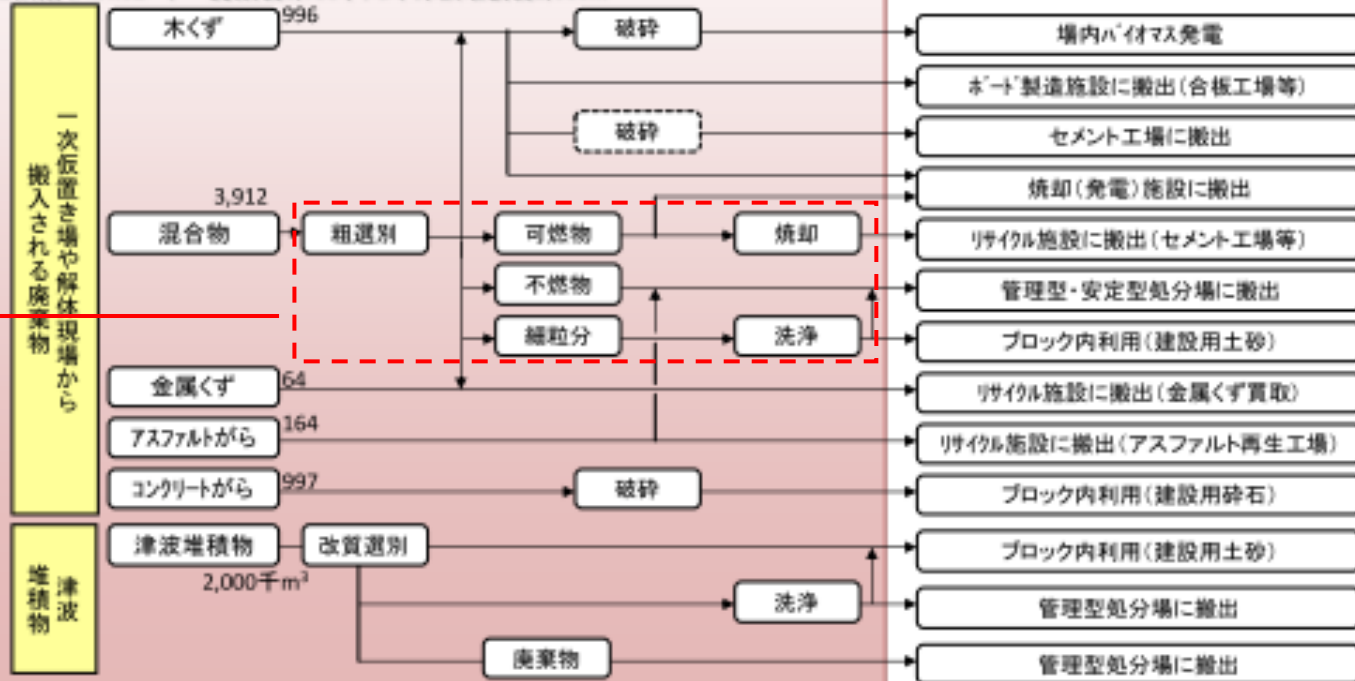
石巻市：廃棄物 5,810千トン
津波堆積物 2,000千m³
東松島市：廃棄物 835千トン
女川町：廃棄物 209千トン
計：廃棄物 6,854千トン
津波堆積物 2,000千m³

詳細を次スライドに示します。

第1段階 (H23.10~H24.03) 廃棄物721千トン



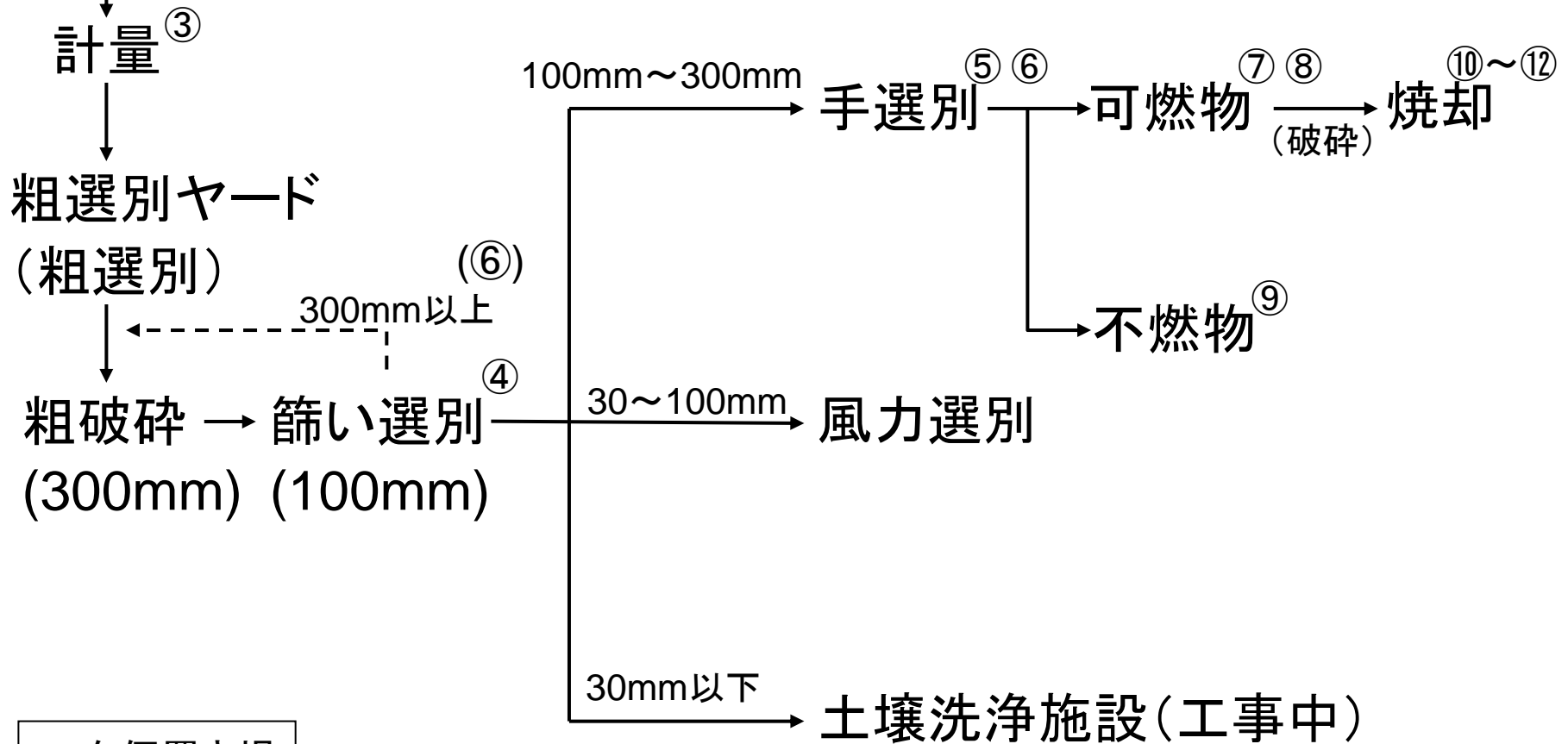
第2段階 (H24.02~) 廃棄物6,133千トン、津波堆積物2,000m³



二次仮置き場における選別の流れ

①②
一次仮置き場

①～⑫は写真番号



二次仮置き場

現場狀況

①一次仮置き場 I

(二次仮置き場に隣接する石巻市一次仮置き場)

環境省、消防から積み上げ高さは5mまでと指導を受けるが対応できない。

空気管を挿入して内部に熱がこもるのを防止している。



②一次仮置き場Ⅱ

畳は火災の原因になるため、高さ2mかつ畝状にして管理している。



③トラックスケール

一次仮置き場から運搬してきた廃棄物の種類を報告



④ 篩い選別



⑤手選別 I

5月10日から稼働。最終的に8ラインできる予定。1ライン当たり22名で作業。



⑥手選別Ⅱ

手選別では不燃物を取り除いている。



300mm以上の木くず(再度破砕機へ)

⑦手選別後廃棄物(可燃物Ⅰ)



⑧手選別後廢棄物(可燃物Ⅱ)



⑨手選別後廃棄物(コンガラ)



⑩ ストーカー炉

廃棄物の性状が明確なものはストーカー炉、そうでないものはロータリーキルン炉で焼却。

7～8月にかけて順次稼働。



※5月10日撮影

⑪ロータリーキルン炉

1基(左側)は5月13日に火入れを行い、6月から本格稼働。もう1基(右側)も7月に稼働。
8月には全5基(焼却能力1500t/日)が稼働する予定。



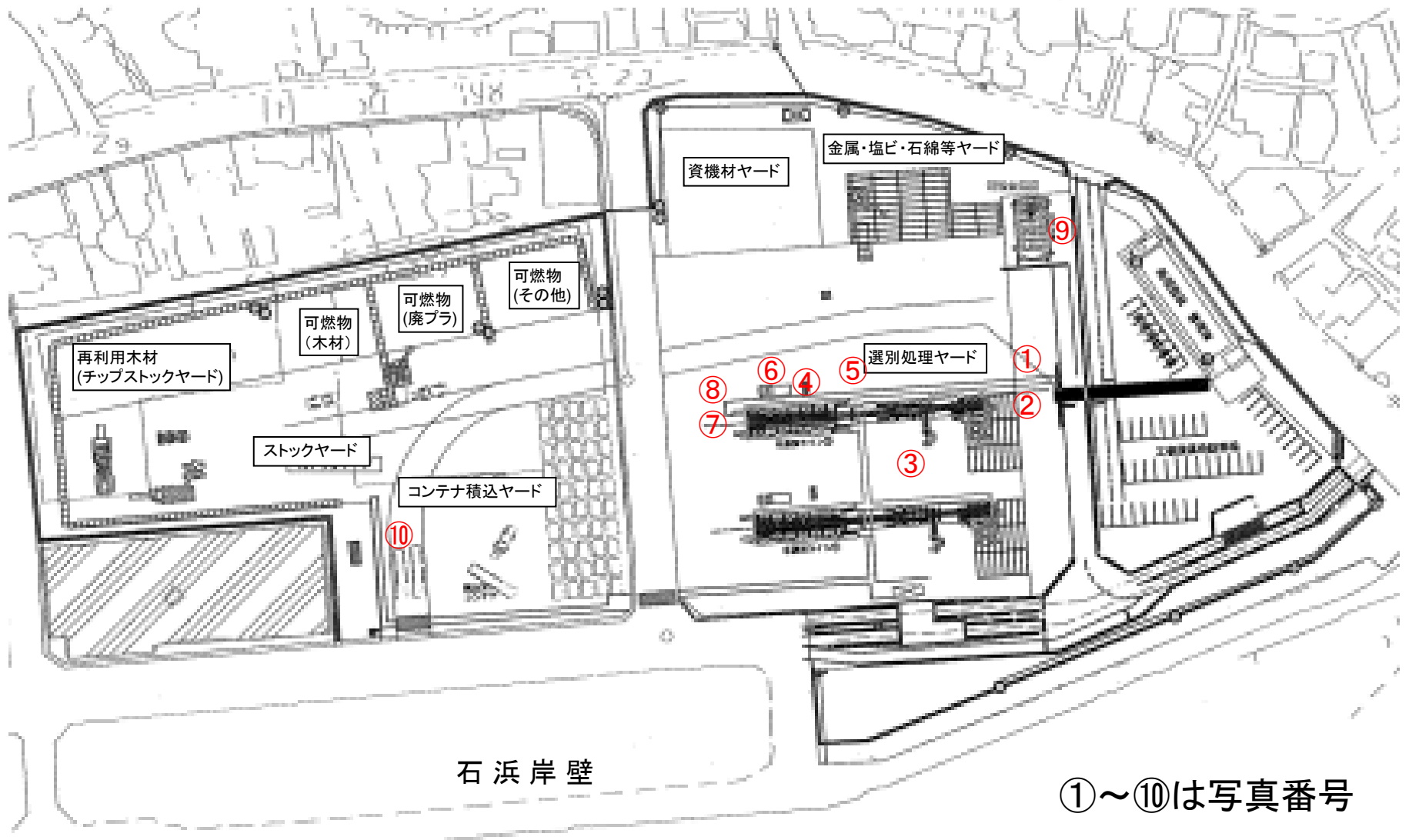
⑫焼却用廃棄物保管ヤード



5. 宮城県女川町（5月17日）

災害廃棄物選別処理施設

女川町災害廃棄物選別処理施設



①選別ライン(磁力選別機→トロンメル→手選別)



②廃棄物投入状況



③ トロンメル選別後廃棄物



④手選別



⑤手選別後廃棄物(紙・布・皮製品/廃プラ類)



⑥手選別後廃棄物(コンクリートガラ等)



⑦手選別後廃棄物(木くず)



放射線量率測定

⑧選別ライン空間線量率測定(1時間に1回)

搬出基準値 \leq バックグラウンド(BG)の3倍

5月17日 BG $0.10 \mu\text{Sv/h}$ 測定値 $0.09 \sim 0.11 \mu\text{Sv/h}$



⑨遮蔽線量率測定

(コンテナ毎)

遮蔽体内部で測定器を試料に
接触させて測定

搬出基準値 (BG差し引き後)
 $\leq 0.01 \mu\text{Sv/h}$

測定値 (BG差し引き後)
 $0.000 \sim 0.002 \mu\text{Sv/h}$

鉛製容器



⑩コンテナ空間線量率測定(コンテナ毎)

5月17日 測定値 0.08~0.09 μ Sv/h



※5月10日撮影